

2-4

主題	「利用者を知る」って、ということ…?
----	--------------------

認知症ケア	副題 センター方式の活用と併設型施設の特性を利用して 利用者その人をもっと知り、ケアに繋げよう。
個別ケアへの取り組み	

研究期間	4ヶ月	事業所 地域密着型サービス 第二光陽苑デイサービスセンター
発表者：山田 修平（やまだ しゅうへい）		

共同研究者：萩原 久美子

電 話	03-5991-9917	メール	dai2kouyouen@mx5.ttcn.ne.jp
FAX	03-5991-9918	URL	http://www.timelyhit.ne.jp/senyoukai/

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	社会福祉法人泉陽会が母体である第二光陽苑デイサービスセンターは、平成11年5月に開設。現在は、通所介護40名・認知症対応型通所介護12名。特養・ショート・訪問介護・訪問看護・居宅介護支援事業所・地域包括支所を併設している。
------------------------------	---

《研究前の状況と課題》

プログラムの充実を図り、楽しく快適にデイサービスに通所して頂こうという目標はあるが、利用者一人ひとりの希望や現在に至る生活歴等を十分に知るスケールが乏しく、提供するサービスも画一的であった。

また、利用者の有する能力に応じたサービス提供の意味がまだ浸透しておらず、職員間でも意識やサービスにバラつきがあるという課題があった。

《研究の目標と期待する成果》

「センター方式」を活用することで、今まで以上に利用者一人ひとりや家族の思い、できる事・できないこと等明確にできる。

また、そのためには職員間での意識（声かけの仕方や利用者への関わり方など）を変える必要が出てくる。特に認知症を抱える方に対してのサービスが、「その方を知る」ことでより良くなることを期待した。

また、利用者の表情や行動に良い変化が現れる事が職員のモチベーション等に繋がり、今後の当デイサービスのケアの向上にも繋がると考えた。

《具体的な取り組みの内容》

- ・センター方式の中で使用する書式の選定
- ・アクティブ及びセンター方式試行における職員への説明
- ・対象利用者の検討及びご家族へ聞きとり等の協力依頼
- ・センター方式から見えた利用者の姿についてカンファレンス実施
- ・有する能力に応じたサービスの提供
- ・併設型施設の利点を活かして、ショートステイ利用中の夜間帯の利用者に寄り添い、日中の様子との違いを知り、ケアにつなげる。
- ・ご家族や同施設内他部署やケアマネジャーとの連携
- ・利用者その方をどこまで知ることができたか・変化が出たか考察と、これからのケアについて検討。

《取り組みの結果と評価》

- ・今までは利用者の「できないこと」ばかりに意識が行く傾向があった。
- ・今回センター方式を「利用者を知るスケール」として活用し、本人・家族・他職種・職員間で情報を共有したことで、今まで以上に利用者を知ることができた。

また、利用者の「できること」「できないこと」を把握することができ、職員間での利用者に対する見方や気づきが増えた。

- ・利用者の「有する能力に応じ」という点で、何か引き出すことができないかを考える意識や声かけが芽生えてきた。

- ・利用者の表情や行動等に少しずつ変化が現れたことは、介護する私たち職員には驚きであり多くの発見があった。

利用者1人ひとりの「できること」の発見と、「できないこと」へさりげないお手伝いをさせて頂く大切さを学んだ。その事が、利用者自身の気持ち・自尊心に繋がり、生き生きとした表情につながった。

《まとめ》

- ・利用者をもっと知るという点で、今後他の利用者にもセンター方式を活用して、当センターのサービスの質の向上につながるように努めていきたい。

《参考文献》

《提案と発信》

- ・以前から研修等で「センター方式」については知っていましたが、今回当センターでも何名かの利用者に活用させていただきました。皆様ご周知のとおり、活用する上での職員への周知徹底や情報の共有～ケアへの連動まで困難もありましたが、利用者その方を知る事が職員の意識やケアの変革・利用者自身にも変化が現れたので、今後本格的な導入に向けて努力したいと考えております。

【メモ欄】追加資料 有 無